

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第20号

2011年4月



●新年度を迎えて

●医療の現場から①②

●北辰メディカルフォーラム

●こんにちは 医療連携・相談室です

●市民公開フォーラム

●きっずこーなー

すこ式あるめ故ま來校競状甲

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国を中心で悠久に燐然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。

… 新年度を迎えて …

副院長 吉田 純一



札幌社会保険総合病院にとりまして平成23年度は新中期3カ年計画の2年目に当たり、最終目標達成に向け更なる飛躍を遂げるべき年であります。さらには、我々社会保険病院を束ねる全国社会保険協会連合会にとつても重要な年で、我々は目標達成のために一層の努力が必要とされています。

そこに今回の東北関東大地震が発生しました。被災者のご苦労、なくなられた方の無念を思うと深い悲しみに沈みます。勿論簡単ではありませんが、日本は必ず復興復活できると信じます。全世界も注目し応援してくれています。

ただし復興のビジョンが出来ているのか心配。再興した日本の姿を示すことが出来るのでしょうか。例えば、原発。唯一の被爆国である日本こそ、原子力の平和利用に範をたれねばなりません。関係者の皆さん、がんばつて何とか治めてください。現在50基以上の原発が稼動していて、総発電量の30%位を占めている。私は消極的賛成派かつ基本的脱原発論者ですが、この分を不安定電源である水力、太陽光、風力、地熱・・・で補うにはまだまだ無理です。話が飛ぶようですが、少子化が大変な問題とされています。我が日本国は四季の移い美しく、緑豊かで水のきれいなすばらしい国ですが、いかんせん小さな島国、さらに平らな所はホンの少し。この国土にはどのくらいの人口がふさわしいのか、きちんと考えている人はいるのだろうか。などと妄想中です。

それにしてもまずは目の前の壊滅的状況からの脱出に、我々も出来る限りの手助けを惜しんではいけません。そしていつまでも悲しんではかりもあらず、いつも通り、いやいつも以上に活発に活動しなければなりません。そうすれば、北海道が東北が、そして日本が元気になるでしょう。そうでなければ札幌社会保険総合病院の存在も、夢物になってしまふでしょう。

今年は特別な年になりました。

がんばれ東北

がんばる北海道

負けないぞ日本

医療の現場から①

甲状腺外来を始めるにあたって

副院長兼健診センター長 佐々木 文 章



皆様お気づきでしょうが、平成22年11月中旬から甲状腺外来として診療を始めました。甲状腺腫瘍を有する人、健診で甲状腺が大きいと指摘された人、甲状腺ホルモン検査で異常を指摘された人はたくさんいらっしゃいます。しかし厚別地区に甲状腺を専門に見てもらうところがなく、この要望にこたえるために専門外来を始めました。

甲状腺疾患としては、①甲状腺ホルモン異常をきたす慢性甲状腺炎（橋本病）とバセドウ病、②甲状腺の腫瘍性疾患（がんと良性腫瘍）があります。甲状腺疾患は女性の方に多く見られます。健診などで甲状腺が全体的に腫れていることを指摘されて来院する方の多くは慢性甲状腺炎です。慢性甲状腺炎は甲状腺ホルモンが低下してくれれば（実際には甲状腺刺激ホルモンTSHをみて決めています）甲状腺剤を服用してもらいますが、

血中に抗甲状腺抗体が高く慢性甲状腺炎と診断されてもホルモン値が正常で経過を見ているだけの方がほとんどです。バセドウ病は抗甲状腺剤を服用してもらいますが、近年ヨード療法で治療する方も増えてきています。

甲状腺がんも女性に多く、また若年者であればあるほど治りやすい癌です。50歳前の女性の甲状腺がんは手術を行えばまず生命予後にかかわることはありません。

手術の方法は日本では甲状腺を2/3切除する亜全摘+患側の側頸部リンパ節廓清が行われています。しかし米国では甲状腺全摘（甲状腺周囲のみのリンパ節廓清）+術後アイソトープ療法が一般的な治療法です。本邦でも全摘をする施設が増えてきています。再発の危険性の高い時には全摘、低い時には亜全摘ないし葉切除で良いと思います。

また頸動脈エコー検査時等に甲状腺腫瘍を発見され、紹介される患者さんもたくさんいらっしゃいます。腫瘍の確定診断をつけるには穿刺吸引細胞診ABCが必須です。直径1cm以下の甲状腺がんは、一生そのままの状態であり、生命予後に関係しませんので、手術の対象とはならないことがほとんどです。そのため、直径1cm以下の甲状腺腫瘍を見つけた場合、ABCは行わず、毎年エコーで検査のみを行い腫瘍径を測定し、大きくならなければそのまま経過を見させてもらっています。甲状腺がんの治療にあたっては、他の臓器のがんとは異なる考え方で治療に当たらなければなりません。

甲状腺外来が、少しでも甲状腺疾患を持つ方のお役に立てるごとに願っています。

医療の現場から②

ワクチンで防ぐことの出来る病気

小児科 部長 東館 義仁



今年、無料のワクチンが3種類増えました。二つは5才未満の子達を対象とした肺炎球菌ワクチンとヒブワクチン。もう一つは中学生と高校1年生女生徒を対象とした人パピローマウイルスワクチン（子宮頸癌ワクチン）です。

今まで、それぞれ8万、6万円弱の自己負担が必要でしたから、経済的理由で躊躇されていた御家庭には朗報です。これからは髄膜炎や肺炎で不幸な目にあう小さな子供、子宮頸癌で苦労される女性が減ることになります。

税金でこのような高額ワクチンを負担することに抵抗ある国民もいるかもしれません、病気になった場合の治療費よりも明らかに少額であり、お金の損得だけではなく、我が子を亡くしたり髄膜炎後遺症で苦労する親の心情、癌を抱えた本人と家族の負担を考えると明らかに有用な負担です。

当院近隣の子供人口は4万人ほどですが、肺炎球菌やヒブについては、毎年2名程度の子が髄膜炎で、50名程度が肺炎で入院し、決して希な病気ではありません。難治性の中耳炎（毎年20名弱の入院）の予防にも貢献することも期待されています。3種混合と似たような接種時期と回数で多くの医療機関では同時接種を実施しています。生後半年はBCGやポリオもあり間隔で混乱します。生後2から3ヶ月になったら掛かり付け医療機関に相談しましょう。なお、平成23年3月時点で高校1年生の子は、3月31日までに子宮頸癌ワクチン1回目を接種すると以降の2回分も無料になります。

再度念を押しておきたいのが麻疹・風疹（MR）ワクチンです。1才で1期、小学校就学前の2期と2回接種することで終生罹りません。麻疹は罹ると2千人に一人死亡する怖い病気です。また、多くの高校では2回接種していない生徒を修学旅行に連れて行かないようです。家族やツアーワーでの海外旅行でも、グループ内に麻疹発病者がいると全員が1週間以上ホテルの部屋に閉じこめられルームサービスや飛行機の変更で数十万円の出費となります。

北辰メディカルフォーラム

第48回 1月31日開催

1月31日講義室において第48回北辰メディカルフォーラムが開催されました。

毎回著名人をお迎えしているこの北辰メディカルフォーラムですが、今回は北海道大学大学院医学研究科、放射線医学分野教授の白土博樹先生による「放射線治療の適応と最先端研究開発」と題する放射線治療に関する講演でした。

高校時代から北大医学部と同期であった松岡副院長の軽妙な座長で



和気藹々の雰囲気の中、放射線治療の概略、白土先生が開発した、動きのある臓器に対して効果を発揮している定位治療や、最先端のがん治療と言われている粒子線治療について、詳細に講演して頂きました。建設費100億円とも言われている粒子線治療の設備は北大病院に数年の年月をかけて建設されます。

白土先生のますますのご活躍を祈念致したいと思います。(相川記)



第49回 3月14日開催

3月14日、第49回北辰メディカルフォーラムが開催されました。

今回は、いつもと趣向を変え、医学の難しいお話ではなく、写真を見ながら健康について気楽に聞ける内容を考え、北海道医療大学薬学部附属薬用植物園・北方系生態観察准教授 堀田 清 先生をお迎えし「植物エネルギーは心のくすり」という演題でご講演いただきました。



堀田先生曰く、「健康の極意」の一番の基本は、目、鼻、耳、口、肌の五感を使って大地に流れる気（生命エネルギー）を私たち自らが感じ取り、それを自らが育むことだそうです。

これは中国漢方医学の根幹をなす考え方でもあります。そして、大地に流れる気を取り入れるとはどういうことか？ それは目に映る美しい風景、季節の香り、風や海のざわめき、毎日口にする旬の食材、私たちの身の回りの全てに対して「感動する心」「旬を感じる心」「感謝する心」を持ちながら生きること。

お金を出せば何でも手に入れることのできる現代の物質文明の中では、その心を持続することは難しいことかもしれません、ひょっとしたら現代の日本人が今、最も必要としていることではないかとお話をされました。



講演の中で、野菜の花を知っていますか？ とクイズ形式で質問があり、堀田先生と参加者とで活発なやりとりがあり、会場はとても和やかな雰囲気でした。知ってて食べると感動が2倍になって、お野菜さんの『気』がよりたくさんもらえますよ！ と話されていました。

多くの美しい花の写真を見ているだけで、野菜の気（元気）をいただいたような幸せな気持ちになりました。(井藤記)

こんにちは 医療連携・相談室です

日頃、連携をさせて頂いている先生方を紹介します。

医療法人社団糖友会 栗原内科

今回は、平成6年10月に開業されました栗原内科の院長栗原義夫先生にお話を伺いました。

糖尿病が専門の栗原内科では、外来で患者様があ待ち頂いている間に、血糖値はもちろん、HbA1cや総コレステロールなどの測定を行い、糖尿病指導に役立てておられます。

また、大切な食事療法に関しては管理栄養士による栄養相談や毎月1回の糖尿病教室で糖尿病についての合併症や療養上の注意点などの解説を行いながら、きめ細やかな対応をされておられます。

●病院の特徴について教えてください

私は北辰病院と札幌社会保険総合病院に通算10年半勤めさせて頂き、平成6年10月に札幌社会保険総合病院から国道12号線を渡って1分の場所に開院いたしました。

当院の特徴は糖尿病と高脂血症を専門としたクリニックです。現在約2400名の糖尿病患者さんと約400名の高脂血症の患者さんが通院しております。そのうち約半数が厚別区の患者さんです。

スタッフは常勤医は私1人ですが、非常勤医が12名、事務が6名、看護師が10名、管理栄養士が3名、臨床検査技師が2名です。診療方針としては患者さんに納得していただける診療を目指しております。

●医療連携に対するお考えをお聞かせください

医療連携については17年前の開院時より貴院の医療連携・相談室を通じて放射線科をはじめ糖尿病科、消化器科、循環器科、眼科、泌尿器科、耳鼻科、皮膚科、外科など各科の先生方に大変お世話になっております。

とくに放射線科ではCTによりたくさんの患者さんの癌を発見していただき心から感謝しております。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目7番28号
電話011-892-3522 FAX011-892-3521



院長 栗原義夫先生とスタッフの皆様



♪市民公開フォーラム♪

2月1日17時より開院記念日を記念して、市民公開フォーラムが当院のエントランスホールで開催されました。

第1部は神原希未さんのピアノ伴奏で鈴木敦子さんの素晴らしい歌声が披露され聴衆を魅了しました。つづいて第2部は当院のオカリナ部の演奏で、日頃の練習の成果を発表しました。



第3部は整形外科の黒部先生とリハビリテーション部の田附技師長の「膝」をテーマにした講演が行われました。

会場のエントランスホールには入院患者さんや多くの市民の皆さんのが集まり、楽しい一時を過ごしました。



Let's オカリナ☆

リハビリテーション部 佐藤直人

2月1日は病院の開院記念行事として、市民公開フォーラムが今年も執り行われました。そこで、我が病院のオカリナ部がなぜか演奏することに……。

演奏することが決まったのは1か月前。以前から練習していた「北の国から」と「虹と雪のバラード」を再度練習したのですが、いかんせん素人だらけの集団なので不安を抱えたまま当日を迎えました。僕らの前のプログラムとして、ピアノ伴奏と素敵な美声が披露されておりました。

「これはオカリナを先にやった方がよかったですではないだろうか……。美声を聞いてうっとりした後に未熟なオカリナを聞かせるのは忍びないな……。」などと思っていたらすぐ僕らの番。緊張しやすい体質の僕は、また倒れて(以前緊張で倒れた経験あり……)5階東病棟へ運ばれるのではないかと演奏よりも心配していましたが、とりあえずなんとか演奏を終えほっとしてあります。

次回発表する機会がいつになるのかはわかりませんが、少しずつ上達した腕前を披露できたらと思っています。

今回ピアノ伴奏で協力していただいた4階西NSの高井さん、突然の依頼に応えていただいてありがとうございました！

オカリナ部は現在約10名程で、基本的には毎月1回リハビリ室で講師の先生を迎えて活動しています。メンバーはみな初心者ばかりなので、少しでも興味のある方は図書室の篠原さんまで連絡よろしくお願いします。



オカリナ部と僕

4階西ナースステーション 看護師 高井剛史

2月1日の開院記念日にエントランスホールにてオカリナ部とピアノで「虹と雪のバラード」「北の国から」を演奏しました。

ピアノを弾くのは何故か僕でして、人前で弾くのは看護学校1年生以来9年振りでした。その時は間違いだらけで、司会の人も苦笑いするしかなかったようでしたが、今回は何とか弾けました。



終わった後、後ろに居た真下さんの笑顔がとても印象的でした。

子供の頃は何故男がピアノなんか！と思ってましたが、開院記念日を経験して良かったなと思います。これからはレパートリーを増やせるように頑張ります。

きつずこーなー

3階西病棟 保育士 岡島沙貴

キッズコーナーが新しくなりました。

広くなっただけではなく、コーナーブロックをお子様向けに低くした為、開放的になったと思います。

また、木製ビーズを用いた遊具と季節ごとに変わる装飾も加わりました。

是非、お子様とお立ち寄り下さい。



院外処方せんFAXコーナーが移動しました



編集後記

地震と津波の恐ろしさを知つてゐながらも、ここまで大きな災害になるとはおそらく誰もが想像していなかつたであろう今回の東日本大震災、被害に遭つた多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。東北、関東の社会

保険病院でも大きなダメージを受け、現在もなかなか復旧できずにいると聞いてあります。当院からも義援金や支援物資を送り、人的派遣要請にも応える体制を作つてゐるところです。一日も早く復興することを願い、協力していきたいと考えてあります。

さて、2006年に創刊したこのボラリスですが、年4回の発行で今回20号を迎えました。院外広報誌として地域の皆様に情報を発信したいと考えてあります。今後ともよろしくお願いします。(相川記)
編集委員 相川・長瀬・吉川・小林・有賀・嶋宮・中野渡・新谷・奥田・細谷・渡久山・北村